

月間報告書 2022年3月分

学籍番号 留学先 ペルージャ外国人大学  
 氏名 留学期間 2022/01/01~2022/09/19  
 年次 4年次 留学区分 派遣留学

I. 受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	intermedio di secondo livello (B2.3) Competenze linguistiche di base	基礎言語能力	2880	授業
2	intermedio di secondo livello (B2.3) Lab.pronuncia e grafica	発音と筆記の演習	480	授業
3	intermedio di secondo livello (B2.3) Sviluppo delle abilità	能力発展	960	授業

II. 授業内容

No. 1

この授業では主に文法を勉強した。1月、2月の最初の2ヶ月間で教科書はほぼ終わったらしく、3月は先生が用意してくれたプリントを使って練習問題を解いた。文法は主に関係代名詞、過去分詞、現在分詞、診、明示節、直接話法、間接話法を勉強した。月の後半は、今月がB2レベル最後の月で月末に最終試験があるため、最終試験に向けてまだよく分からないところや不安なところを先生が毎日生徒に聞いて、みんなの要望に合わせて復習を兼ねて授業を行っていた。

No. 2

本来ならばこの授業は実験室でリスニングの演習をしたり、音韻論や発音を学んだりする。しかし、3月に行われたCELI(Certificati di Lingua Italiana)のテストにクラスメイトの何人かが受験すること、この授業の担当の先生が試験官であることから、基本的にはCELIの試験対策として過去問題を解いて答え合わせをしていた。私は6月のCELIを受験する予定なので、前もって試験傾向などを知れて良かった。CELIの対策以外には、先生が持ってきたあるテーマについて自主的に挙手して発言しみんなで見聞交換をした。世界各国からきている人たちと話すなかで文化や考え方、感じ方の違いをとて実感した。イタリア語を使って色々な世界のことを知れることはペルージャ外国人大学に通う大きなメリットでもあったと感じた。

No. 3

本来ならばそれぞれの授業を違う先生が担当するのだが、今月はこの授業と文法の先生が同じだったので、授業の内容としては文法の授業と変わらず、文法の授業の続きをこの授業でもしていた。

III. 生活編

イタリアに来る前、オンラインでペルージャ外国人大学の先生との口頭試験があり、その結果に応じて大学のクラスが決められる。2月25日イタリア、ペルージャに到着。大学が始まる前の数日間中心街を歩き、スーパーや大学の場所等主にこれからの生活に重要な場所をいくつか確認してまわった。3月1日から大学の授業が始まった。大学は各レベル+1, 2, 3 (例: A1.1 A1.2 A1.3)のようにクラス分けされ、3ヶ月かけて1つのレベルを終える仕組みになっている。私はB2.2(B2レベル2ヶ月目のクラス)に振り分けられていた。大学初日は先生やクラスメイトと自己紹介、先月の授業内容の復習をした。5ヶ月間と決められた期間の留学生活で可能な限り自分のイタリア語のレベルを上げたかったので、授業後先生の元へ行き話を2日目からのクラスを1つ上げてもらった。それゆえ3月はB2.3に通った。休憩時間にB2.2に行ったり放課後集まってお喋りしたりして、一緒に勉強したのはたった1日だったが、B2.2のクラスメイトたちとはとても仲良くなった。もちろん、B2.3のクラスメイトたちとも授業中や放課後に話をするなかでお互いを知り合った。正直初めの1ヶ月でこんなにたくさんの友達ができるとは思ってなかった。外国人大学なのでもちろん知り合った人の多くはイタリア人ではないが、世界中からきている様々な文化を持つ人たちとイタリア語を通して交流できることは、ペルージャに留学する大きなメリットであると感じた。

私は最初の1ヶ月(2月26日から3月26日)はレジデンスで1人暮らしをした。家賃は400€と周りの留学生に比べると高かったが、立地やレジデンスの条件を見ると妥当な値段であると思う。3月の27日に違う家に引っ越した。この家については4月の月間報告に書こうと思う。

3月と一緒にペルージャに来た他の京都外大生と一緒にフィレンツェに住む友達に会いに行った。友達との久しぶりの再会、その友達は半年間の留学を終えて4月に帰国予定なのだが、この半年でイタリア語がすごく伸びていて私も留学を頑張ろうと刺激された。

月間報告書 2022年4月分

学籍番号 留学先 ペルージャ外国人大学  
 氏名 留学期間 2022/01/01~2022/09/19  
 年次 4年次 留学区分 派遣留学

I. 受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	avanzato di primo livello(C1.3) Competenze linguistiche avanzate	上級言語能力	2,280	授業
2	avanzato di primo livello(C1.3) Fonetica	音声学	240	授業
3	avanzato di primo livello(C1.3) Laboratorio Testuale	テキスト読解	720	授業
4	Storia della musica	音楽の歴史	780	授業
5	Storia dell'arte	芸術の歴史	480	授業

II. 授業内容

No. 1

近過去におけるessere, avereの使い分け、文を読み、動詞の原型を形容詞や名詞、副詞に変換する問題、イタリアに来ていた外国人がお母さん宛に手紙を書いたという設定の文章を読み、マイナスな部分をプラスになるように変えていく問題、諺の説明や意味の確認、定冠詞をつけながら形容詞の性を合わせる問題など今月は様々な形式の問題に取り組みました。

来月から文法の難しいところに触れていく感じかなと思う。

No. 2

月からこの授業を担当する先生が代わり、ようやくちゃんとした発音の授業が受けることができた。今月は同じ発音でもスペルが変わる単語を中心に勉強した。

No. 3

テキストを読みながらわからなかった単語を生徒それぞれが質問をし、テキストの内容を一通り理解したうえで、続く質問に回答して、最後にその話題や題材について自分はどう思ったかや意見交換をした。

No. 4

今月から語学コースのレベルがCになったので、文化コースの授業にも登録した。

この授業では1時間でオペラの鑑賞、2時間ある時は音楽の先生がオペラで流れた、またはそのオペラに関係のある音楽をピアノで弾いてくれて、途中この場面はこんな気持ちで聞いてくださいやここはこんなシーンを想像してくださいといった指示があり、音楽にひたすら触れるといった授業だった。

No. 5

今月から語学コースのレベルがCになったので、文化コースの授業にも登録した。

この授業を受けての感想は、キリスト教の宗教知識が一般のイタリア人ほどないと授業理解が難しいということ。先生はなるべく簡単な単語を選んで説明してくれているのはわかるが、全ての絵画がキリストの話に繋がるため、主要な人物の名前や、簡単なキリストにまつわるストーリーは知る必要があるなと思った。

III. 生活編

今月は誕生日にクラスメイトたちにお祝いをしてもらった。いろんな国の言葉で誕生日の歌を歌ってもらったり、まだ1ヶ月しか一緒に過ごしてないにも関わらず、素敵な言葉で溢れた手紙を貰ったりととても嬉しかった。4月頭に滞在許可証の申請に、イタリアでは珍しいマクドナルドの近くにある警察署へいった。今月の週末の楽しみはお気に入りのカフェでホットチョコレートを飲むことだ。日本のホットチョコレートはココアみたいなものを想像するが、イタリアのはどろっと本当にチョコを溶かしただけのような飲み物、スイーツである。2週間に1度ほど、いろいろな催しを中心街で開催される。今回はシチリアフェアをやっていたので、早速名物のアランチャーノ(ライスコロッケ)とカンノーロ(パスタに近い生地の中にリコッタチーズを詰めたスイーツ)をいただいた。末にはクラスメイトの何人かと一緒にオルヴィエートへ日帰り旅行へ行った。オルヴィエートも丘の上にあるペルージャのように、崖の上の都市であり、「世界一美しい丘上都市」と呼ばれている。中世の街面影が残った町並みはとても綺麗だった。写真はオルヴィエートでのも一枚。

月間報告書 2022年5月分

学籍番号 留学先 ペルージャ外国人大学  
 氏名 留学期間 2022/01/01~2022/09/19  
 年次 4年次 留学区分 派遣留学

I. 受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	avanzato di primo livello(C1.3) Competenze linguistiche avanzate	上級言語能力	2160	授業
2	avanzato di primo livello(C1.3) Fonetica	音声学	480	授業
3	avanzato di primo livello(C1.3) Laboratorio Testuale	テキスト読解	960	授業
4	Storia dell'arte	芸術の歴史	720	授業
5	Storia della musica	音楽の歴史	720	授業

II. 授業内容

No. 1

今月の文法は主に、不定法、不定詞、prima di, senza, invece di, dopo、代名動詞、再起動詞の勉強をした。

スクリーンに教科書を映してもらって、それを見ながら、文章のどこが間違っていて、どう訂正すれば正しいのか、順序がバラバラになっている文章を綺麗に並び替える等を初見で口頭で答えていく形式だった。今までより授業のスピードや難易度がグッと上がったような気がする。

No. 2

しゅ、じゅ、の発音、発音記号の書き方の練習、スピーカーが話したのち、自分も繰り返し発音し、その録音を聞きながら先生に自分の発音についてのアドバイスをもらってもう一度録音しなおす、といった工程を繰り返した。私はu、う、の音がネイティブのように発音できなくて苦労している。しかし、他の日本人たちはこの音を発音できるため、日本人が持っていない音というわけではなく、個人的に発音が難しいということに気づいた。知り合いのイタリア人にもRの音が出来ず、全てLになってしまう子がいるが、きっとそんな感じなのだろう。

No. 3

今月もたくさん話題やニュースを読んだ。地球温暖化や過保護なお母さん、男性優位主義問題など日本語で取り上げてもある程度の語彙力や社会、宗教に於いての知識が必要となる内容が多かった。ペルージャ外国人大学のいいところは世界中からきている生徒たちがイタリア語を通してそれぞれの経験や国の話をする事、そして聞けること。自分の全く知らない国の人たちの意見を生で聞けることは、自分自身の考え方やものの見方、視野を広げたと感じる。

No. 4

今月は主にヴェネツィアの芸術作品について勉強した。特に印象に残っているのがヴェネツィア派の画家、Vittore Carpaccio ヴィットーレ カルパッチョだ。彼は風景描写に優れていて、“Scuola di Sant’Orsola” “聖ウルスラ物語”で知られている。また、最後の晩餐についても勉強をした。たまたま、今月は(最後の晩餐が保管されている場所でもある)ミラノに行く予定があったため、より関心深く話が聞けた。

No. 5

授業形式自体は先月と変わっていない。今月の授業ではDesneyで流れる音楽について話した。子供の時からよく知るストーリーの挿入歌、バックサウンドの大切さについて学んだ。また、オペラの音楽について話している時に、先生が、ここのセリフが命令法でないのは、人の思考や感想は支配できないから。とおっしゃったのがとても印象的だ。

III. 生活編

私のクラスメイトには聖フランチェスコの修道士が2人いて、そのうちの1人からの提案でクラスメイトたちと一緒に聖フランチェスコの聖地、アッシジへ行って来た。現地アッシジでは、その修道士の人が街のことや教会の中の装飾のこと、サンフランチェスコにまつわる逸話など、たくさん説明してくれた。中旬にはボローニャへ行った。理由は2つあって、1つ目は5年にイタリアに留学していた時のホストママが休暇を利用して北イタリアのピエツァからボローニャに来るという連絡をもらったこと。2つ目はその以前の留学の際にイタリアの主要・有名な都市はほぼ回っていたがボローニャは欠けていたこと。ボローニャの駅に着いて、ホストママの顔を見たら自然と涙が出てきた。実は私の帰国後そのホストママは50歳の誕生日を日本でお祝いする予定だったのだが、誰も予想していなかったコロナウイルスの影響でずっと来日を延期にしていた。日本ですぐに会えると思っていたはずが、再会まで5年かかった。その日は5年間の出来事を1日で語り尽くした。いつまで経っても本当の娘のように接してくれるママが大好きだ。

最近ルームメイトのイタリア人に教えてもらった、ボンボローネが週末の楽しみだ。いわば揚げドーナツなのだが、ここペルージャで有名なスイーツの1つである。中心街に行くと、夜中の一時半からしか食べられない揚げたてのボンボローネを売っているお菓子屋さんがある。夜中のその時間から翌日のための仕込みをしていて、そのうちの少しを揚げたてとして販売している。柵越しにおじいちゃん2人に向かって、ボンボローネまだある？ あったらクリーム入れてちょうだいってお願いする時間はまさに幸福だ。

写真はその夜中のお菓子屋さんである。

月間報告書 2022年6月分

学籍番号 留学先 ペルージャ外国人大学  
 氏名 留学期間 2022/01/01~2022/09/19  
 年次 4年次 留学区分 派遣留学

I. 受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	avanzato di primo livello(C1.3) Competenze linguistiche avanzate	上級言語能力	2160	授業
2	avanzato di primo livello(C1.3) Fonetica	音声学	480	授業
3	avanzato di primo livello(C1.3) Laboratorio Testuale	テキスト読解	960	授業
4	Storia dell'arte	芸術の歴史	720	授業
5	Storia della musica	音楽の歴史	720	授業

II. 授業内容

No. 1

今月は初めて内容が難しくついてくのが大変だなと思った月だった。授業だけの勉強では毎日ついて行くのが厳しかったと思う。帰宅後すぐに隣の部屋に住んでいるイタリア人にここがわからない！これどういう意味？と毎日一時間半から2時間程度、授業時間と変わらない時間を復習にあてた。Cレベルになると文法の理解はできているものとし、あとは言い回しや語彙力を徹底的に上げて行くような勉強になる。また、問題の形式も、文を読みながらヒントなしで主語、副詞、動詞、形容詞、定冠詞、等 全ての言葉から自分で考えて埋めていくような穴埋めだったりした。そのため形容詞等は類語であれば人それぞれ複数正解があり、答え合わせの際も人と違う単語を書いていれば自分から発言して確認を行ったりもした。

No. 2

月末にあるテストの形式通りにプレ・テストを行った。

有声子音の有無や、意味のない言葉を聞いて文字に書き起こしたり、並んでいる単語を見て発音上どれが仲間はずれかを示したり、アルファベットで表記された単語を発音記号表記へ書き換え、発音記号表記の言葉をアルファベットに書き起こす等の試験内容だった。

No. 3

今月はCELIの試験があるため、授業内でもCELI対策を行った。

いろいろなテーマの文章を読み、それらを文字に書き起こしながら要約したり、当てられた人がすぐに口頭で、物語で何が起こったのかを簡単に説明したりした。

私にはまだまだ語彙や用語が足りないと感じさせられる授業だった。

No. 4

以前も記載したようにこの授業はキリスト教についてのある程度の知識がなければ、先生の話を理解するベース知識がないに等しいのでこの留学中に1番苦労した科目かもしれない。しかし幸運なことと同じクラスメイトの修士もこの科目を履修していたため、毎授業後、先生の話をつまみ砕いて一緒に復習してくれた。また、聖書のこの部分を読んだらいいよ。とページ数や題名が書かれた自作リストまで作ってくれた。彼のおかげもあり月末に行われたプレゼンテーションの試験では先生に基本がない中でここまで内容を理解できたのはすごいと褒められた。

No. 5

今月もオペラの鑑賞をして、説明を聴いたあと、先生がピアノを弾いてくれた。Vivardi ヴィヴァルディのオペラを鑑賞した時に、Trionfo di Bacco e Alia nna という詩が話に出てきた。留学前にこの詩を覚える機会があったため、題名を聞いたときにすぐ暗記していた1節を口ずさむと先生がとても喜んでくれた。その詩の中にある、Chi vuol esser lieto, sia / Di doman non c'è certezza (幸せでありたい者はそうあれ、明日に確かなものなんてないのだから) という言葉が、共感できて好きだ。今月は口頭試験も行われた。なぜ音楽が好きなのか、音楽は自分にとってどういったものなのかという内容で先生と会話するように話した。

III. 生活編

今月は高校生の時に留学していたBiellaピエツラの街に行くことができた。ピエツラは北イタリア、ピエモンテ州にある。たまたま仲良しのクラスメイトたちも北イタリアに行く用事があったため、中国とベネズエラ出身の女の子2人と一緒にミラノまで行き、Call Me By Your Name の撮影が行われたことで有名なCremaという街も観光した。イタリアは行く街々で雰囲気や町並み、人や言葉のアクセントがガラッと変わる。それがイタリアの魅力であり、好きなどころでもある。ピエツラでは久しぶりに再会したホストファミリーや元クラスメイトたちと懐かしい話や近況報告をしながら和気藹々有意義な時間を過ごした。月の後半は月末に行われたテストのための勉強でいっぱいだった。放課後は図書館に残り勉強した。図書館で勉強するメンバーはいつも同じで、みんながいるから頑張れた。テストも終わり、一息つくと共に、留学も残り1ヶ月となった。ここで出会った友達は素敵なお友達ばかりで周りの人に恵まれているなどありがたく感じる。毎月、出会いと別れのあるこの4ヶ月だった。来月は自分も飛び立つのだが、この留学期間をより長く一緒に過ごした子たちが帰国する。そう思うと既に彼らを恋しく思う。残りわずかとなった貴重な時間を毎日大切に有意義に過ごしたい。

月間報告書 2022年7月分

学籍番号 留学先 ペルージャ外国人大学  
 氏名 留学期間 2022/01/01~2022/09/19  
 年次 4年次 留学区分 派遣留学

I. 受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	avanzato di primo livello(C1.3) Competenze linguistiche avanzate	上級言語能力	2160	授業
2	avanzato di primo livello(C1.3) Fonetica	音声学	480	授業
3	avanzato di primo livello(C1.3) Laboratorio Testuale	テキスト読解	960	授業

II. 授業内容

No. 1

先生が変わり、進むスピードの速さに驚いた。授業1コマで練習問題が詰まった教科書5-6ページした。この授業は主に文法を学ぶのだが、今月は一通りさらっと復習し、後半は直接話法、間接話法を重点的にした。

No. 2

この授業のみ先生が変わらず、これまでと同じように授業が行われた。発音練習の中でイタリアの早口言葉を知る機会があり、私たち生徒もそれぞれの国の早口言葉を紹介して、どう発音するのかをアルファベットではなく発音記号で全部表記した。日本で音声学を学んだことがないため、初めは不安だった科目だったが優しい先生のおかげで楽しく学ぶことができ、テストも合格することができた。

No. 3

7人しかいない少人数クラスになり先生が変わったため、やることはあまり変わっていないが、当たる回数やグループワークが増え、この授業での発言回数が多くなった。2人1組になって半分半分にされた記事をそれぞれが読み、時間がきたらペアの人に自分が読んだ内容を説明する。相手も同じことを繰り返し、プリントをもらって続く問題に回答する。説明が甘く何が起きたのかちゃんと理解できていないと答えるのが難しい。色々なテーマの記事を読んだが、方言についての記事が1番面白かった。

III. 生活編

月の初めに日帰り旅行で大学で出会った友達とローマへ行った。5年前に見て記憶に残っているローマと勉強する中でイタリアの文化を知り、知識が増えてから見るローマは全く違う街のように思えた。事前に行きたい所などを話し合っていたわけではなかったが、時間の許す限り市内を歩き回って色んな名所を見ることができた。今までも外に出ることは意識していたが、今月は特に友達との時間を作ることを大切にしたい。外国語を学ぶとき、文法ももちろんベースとなるため大切だが、たくさん話す機会を作ることで自然な表現やコミュニケーションの取り方が身につくと考えている。実践が最も大切だ。留学しているペルージャでは毎年7月に2週間世界規模のジャズのフェスタが開催される。この期間はお昼にフラッシュモブやパレードが行われたり、夕方からは3箇所に設置されたステージでジャズの演奏会があったり、世界中からたくさんの方がペルージャに来て街は今まで見たことないくらいに賑わっていた。このフェスタ中に日本から持って来た浴衣を着て出かけた。浴衣で歩いていると色んな方に、とても素敵な浴衣だ、と声をかけてもらったり、写真を撮られたいりして、日本の浴衣をたくさんの人に見てもらえて、興味を持ってもらえて嬉しかった。月末にはNocera Umbra ノチェーラ ウンブラにペルージャに留学中の日本人生徒4人とこちらでお世話になっているT先生と一緒にお茶会を開きに行った。ノチェーラで日本語を勉強している高校生の女の子たちとその子たちの家族、親戚、ご近所さんたち計40人以上の現地の方にお団子とお抹茶を体験していただけた。私は着物を二着持って行き、一着はイタリア人の女の子に着せてあげることができた。今月は少し寂しい月でもあった。ここで出会ったほとんどの友達が帰国したからだ。1人1人、それぞれと忘れられない思い出があって、お見送りをする度に帰り道泣いていた。寂しい気持ちもあるけれど、同じ時期にイタリア、ペルージャで留学することを決めて世界中から集まって、彼らに出会えたこと、友達になれたこと、一緒に素敵な時間を過ごせたこと、かけがえのない思い出が私の力になっている幸せをお見送りの度に感じていた。ここペルージャで見たもの、出会った人、思い出、学んだ事、過ごした日々、全てが間違いなく私の宝物だ。この留学が実現したことに感謝して帰国したい。